



平成30年度放射線安全取扱部会年次大会へのお誘い



平成30年度放射線安全取扱部会年次大会実行委員長 渡部 浩司

平成30年度放射線安全取扱部会年次大会（第59回放射線管理研修会）を平成30年10月25日（木）と26日（金）に宮城県仙台市の仙台銀行ホール イズミティ21にて開催します。本年度のテーマは「久待扶搖萬里風（ひさしくまつふようばんりのかぜ）、平成の終わりに」です。

東北支部が担当の年次大会は、前回の平成23年山形大会から7年ぶりとなります。平成23年は東日本大震災の年であり、日本の転換点となった年でした。そして、今年が平成最後の年次大会となります。本年度のテーマの前半部分「久待扶搖萬里風」は、昨年生誕450年を迎えた仙台を代表する武将である伊達政宗が詠んだ漢詩からいただきました。出陣の前、大きく羽ばたくつむじ風をじっと待っている時の気持ちを表したもので、新しい時代を迎える我々主任者の思いと通じているのではないのでしょうか？伊達政宗像は仙台市を見渡せる高台にあり、きっと政宗は平成の仙台が変わっていく様子を眺めてきたでしょう。本大会参加の皆様にとって、平成を振り返り、そして未来に思いを馳せる大会となることを願って、実行委員のメンバー一同、一丸となって準備を進めてまいりました。

大会1日目では、特別講演Ⅰで、毎年恒例となっております原子力規制庁による「放射線障害防止法関係の最近の動向」についてお話をさせていただきます。ご存知のとおり、放射線障害防止法の改正があり、来年にはいよいよ施行です。主任者はなにを、いつまでに、どこまでやらなければならないのか、について情報を得る絶好の機会です。そして、シンポジウムⅠは、企画専門委員会の企画で、いくつかの「新しい放射線安全管理のフレームワーク」をご紹介します。新しい時代に合わせて、我々もフレームワーク、枠組みを大きく作り変える時期にきています。ぜひこのシンポジウムが皆様の新しい

枠組み作りの参考になればと思います。そして初日最後が、東北大学災害科学国際研究所の越村俊一先生による「東日本大震災の教訓と巨大災害への備え」と題した特別講演Ⅱです。これまで我が国はさまざまな天災を経験してきました。その度に我々はさまざまな対策を施してきましたが、東日本大震災という未曾有の災害の経験から、新しい時代の新しい防災について学びましょう。

大会2日目はシンポジウムⅡで、今の福島について考えていただきます。既に福島第一原発事故から7年を経過していますが、未だに問題は山積しています。福島の解決無くして新しい時代は無いでしょう。今の福島をぜひ聴いてください。特別講演Ⅲでは、東北大学加齢医学研究所の川島隆太先生に最新の健康長寿に関わる脳研究をご紹介します。超高齢化社会は平成を代表する社会問題です。脳トレで有名な川島先生に、この長寿社会をどのように健康で過ごすかを教示していただきます。そして大会最後を飾るのが「加速器の歩み：最初の一步から次の時代に向けて」と題するシンポジウムⅢです。2つの加速器の話を通して、平成を振り返り、新しい日本の未来を考えていただきます。

恒例のポスターコーナーですが、今年は交流会会場と同じ会場で行います。ポスター発表者とじっくりお話できる機会となれば幸いです。その他、機器展示、書籍コーナー、相談コーナーも例年通り設けます。ぜひお立ち寄りください。

最後に注意として、仙台市は東北一の大都市でありながら、あまりホテルの数が多くありません。年次大会ご参加の方は、なるべく早めにホテルを確保することをお勧めいたします。

それでは、皆様と10月に仙台でお会いすることを、実行委員一同でお待ちしております。

（東北大学サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター）